Ⅳ-138　地点正答率からみた街路の識別性に関する研究

埼玉大学工学部　正会員　窪田　陽一
埼玉大学大学院　学生員○山崎　啓子

＜はじめに＞

「魅力ある街づくり」「個性ある町並み」と言った言葉を最近よく耳にする。これは利用者（使用者）によい印象を与える固有の雰囲気を備えた環境を求める声であろう。本研究は、地点識別の正答率に着目し、より望ましい交通環境を考える際の指標の一つとして提案するものである。

＜調査方法＞

対象は千葉県浦安市内の街路、識別回答は市内在住の成人男女３４名から得たものである。回答方法は投影される街路及びそのモンタージュのスライド写真に対して、街路評価（１５項目５段階ＳＤ法）と地点の識別（撮影地点と思われるものを地図上の地点番号から１つ選択）とを１枚について１分間、全部で３９枚に対して答える形を取った。

調査用スライド写真は、市内幹線道路沿いに歩行者の視点から撮影した約2000枚の中から土地利用、道路幅員によって約 400枚を選出、各撮影幹線毎の枚数均等化によって約 300枚とした。これらを用いて予備調査（浦安市外在住の成人男女９名による任意の基準を基にした景観的分類）を実施、34枚を選出した。これにモンタージュ等を加え、39枚とした。

＜結果・考察＞

評価結果に因子分析法を用いることにより、１５の評価項目を３因子（機能性、個性・印象、緑の量）に要約した。それらの因子得点から浦安市民による市内街路の景観的分類を得た。（参考文献）各タイプの因子得点は、表－１のように表現できる。

表－１　各景観分類の因子得点

分類	機能性	印象・個性	緑の量
A	＋＋＋	＋＋＋	＋
B	＋	＋＋	＋＋＋
C	＋	＋	＋－
D	＋	－－	＋
E	＋－	＋－	＋－
F	－－	－－	－－
G	－－－	－－－	－－－

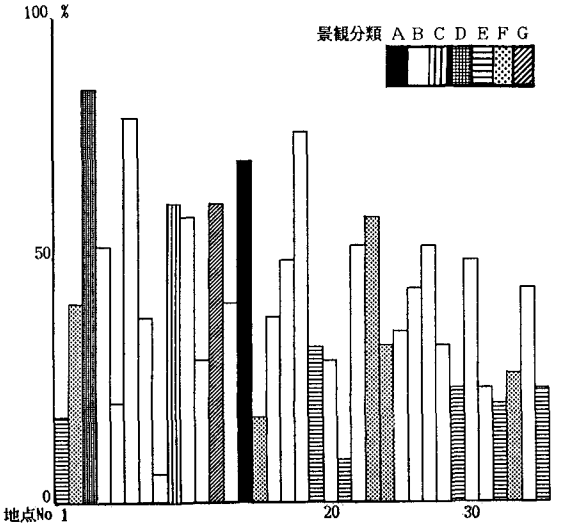
各地点の正答率を図－１に示す。地点は左から右へ調査時の投影順に並んでおり、No１とNo35とは同一スライドである。それらの正答率の差からは、調査方法への慣れが正答率に影響を与えているとは言い難く、各地点の識別は同一の条件下で行われたといえよう。但し、地点No21（タイプD）は調査実施会場脇の街路であり、これは考慮すべきと思われる。

表－１、図－１より、印象・個性を表す第２因子の因子得点の絶対値が大きなタイプが高い正答率を示す傾向にあるといえよう。また、同程度の絶対値では、回答者がよい印象を抱いた地点の方がより高い正答率を示している。

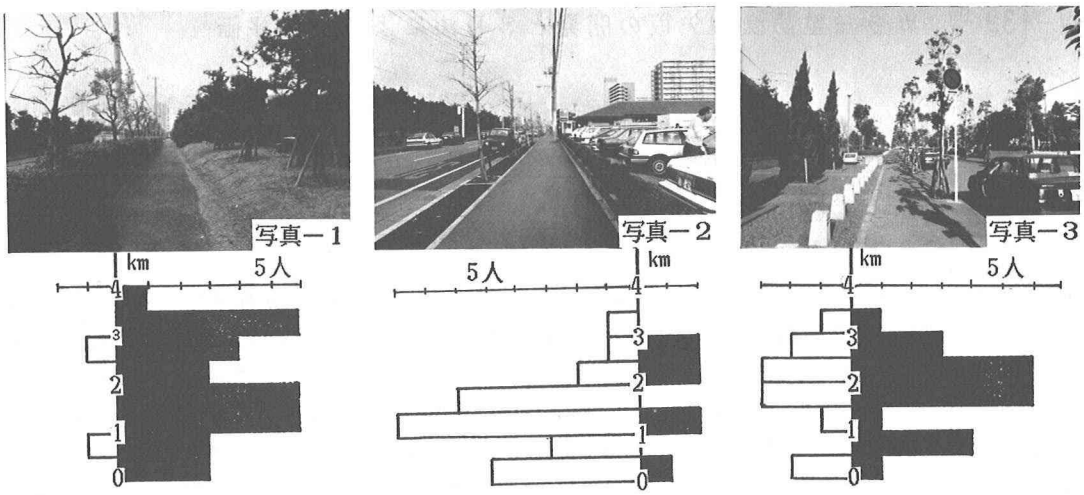
地点の識別調査は、その地点（街路）を通った経験或はその記憶を問うものである。このことから、正答率の低い地点は、市内の人間があまり行かない地点或は記憶に残り難い地点と考えられる。ある地点の識別を難しくする理由として、

①人（成人）の注目度の高い施設がその地点及び周辺に存在しない。

②ランドマークとなるものが存在しない、または写っていない。



図－１　地点毎の正答率



a　地点No８　　b　地点No６　　c　地点No25

図－２　　正誤答距離分布図

③同様の街路が市内に多く存在するため、判別が出来ない。

等が考えられる。これらは何れもその地点の印象の薄さ、個性の弱さを示すものである。

更に、地点の識別はその地点近くに住居のある者程可能となるであろうという仮定の下、各地点毎に地点から住居までの直線距離を用いた正誤答の分布図を求めた。特徴的なもの３タイプの写真及び分布図を例として挙げ、考察を行う。（写真－１～３，図－２ａ～ｃ）

写真－１（図－２ａ）は、市の南東部に位置する小学校一住居地区間の街路であり、近距離居住者の誤認が多く、正答率も低い。これは、①②③全てが理由として当てはまる。新市街地域は、街路樹のある街路が多く、それらが歩行者の視線から、その後ろにある建物を隠しているのである。街路樹の種類を変えている路線もあるが、この結果からはあまり効果を挙げているとは言い難い。

写真－２（図－２ｂ）は、市の中央部に位置する公園一商業地区間の街路であり、正答者が全距離区間に渡り存在、正答率も高い。これに対しては、①②の逆が理由として挙げられよう。これと同様の機能性及び道路構造を持つ街路は市内に多く存在するが、強い印象を与える大規模商業地区がそれを補っていると考えられる。

写真－３（図－２ｃ）は、市の南端に位置する公園一住居地区間の街路であり、地点正答者の住居一地点間距離の平均値が、誤認者のそれより大きな値を持つ。近距離の誤認者は多いが、中、遠距離に正答者が存在するため、正答率はそれほど低くない。これは、①②の理由で利用者は少ないけれども、③と逆の理由で記憶に残り易いのではないかと思われる。公園の緑が歩行者の視線から高架橋を隠している街路は、市内にまだ多くは存在しない。

＜まとめ＞

浦安市に於て街路の識別は、

・周囲（両側）に存在する注目度の高い施設

・街路の整備状況（方法）

のどちらか或は両方を基に行われるが、後者が単独で大きな効果をもたらすことはあまりない。どんなに印象的な街路でも、利用しない限り記憶には残らないが、特徴の掴み難い街路でも、頻繁に利用することで、記憶に残るからである。

この調査の段階では、浦安市の街路は一つの空間としての個性を確立しているものは少なく、何等かの拠点（注目度の高い施設）とそれに付随する道路が大部分であるといえよう。

＜参考文献＞

窪田　陽一他：交通環境の評価手法に関する研究（第４２回年次講演会概要集４）